

アメリカに関するベルゼバブの意見

(グルジェフ『ベルゼバブが孫に語った物語』42章抜粋)

「さて、北アメリカ大陸に大きな現代国家を形成している三脳の生き物[人間]たちの心身の衰えについて話したが、《宇宙》の正常な三脳の生き物[人間と同種の生き物]が備えているものに多少は似た《存在》を彼らが獲得する可能性について言うならば、この点に関して、私は彼らを多少ほめてやることができる。私の見るところ、この国では、この惑星の他の国々に比べ、この可能性をみずからの心身からまだ完全には失っていない者たちの割合が高いのだ。

この新しい国の住民たちはヨーロッパ大陸からの移民であり、移民の流れは今も続いているのだが、特に近年、ヨーロッパ大陸でこの可能性を失っていない者を見つけるには、われらが賢明なる教師ムラ・ナスレディンの言葉を借りて言うなら、『強力なアーク灯』を使って捜さなければならない。くりかえして言うに、アメリカ大陸では、この可能性を失っていない者たちの割合が、ヨーロッパ大陸を大きく上回る。

私が思うに、その理由は、ヨーロッパ大陸からアメリカ大陸に移住する者たちが昔も今も、支配階級の家系に生まれた者たちではなく、主として『民衆』と呼ばれる者たちだからである。ヨーロッパ大陸で支配階級に属する者たちは、幾世紀にもわたるハスナムスの性格[エゴイズムを結晶化させた性格]の遺伝の結果、今では『内的な傲慢さ』をひどくつづらせているため、三脳の生き物と呼ばれるにふさわしい存在になることを目指した共同の取り組みに参加してみんなといっしょに努力することができない。

アメリカに移住した者たちの間には、ヨーロッパの支配階級の家系に生まれた者がほとんどいない。おかげで、彼らが集団として形成する環境は、個々の生き物の内側に生じる『内的諸力の状態』に悪影響を及ぼす私的放射物に汚染されていないという点で、われわれの部族の者にとって暮らしやすいものであり、私もまた、彼らの間にあって、心ゆくまで休息することができた」

[...中略...]

「さて、わが孫よ、『クリスチャン・サイエンス』とかいうものの信奉者にして『フォックストロット』と『ドル』が大好きなこの連中に関するおまえの興味を私は十分に満たしてやったと思う。

最後に私は《客観的正義》の名において、アメリカ人たちに対して、わが心からの感謝を表明しておきたい。現在の彼らがどんなふうであり、今後どのように変わる可能性を持っているかに関わらず、私は彼らの間に暮らしながら、内面的な休息を得ることができたからである。

そして、わが後継者であり、私が長い生涯を通じて獲得したものを今すでに受け取っており、そしてもちろん、これはおまえがどの程度、おまえ自身の意識的な生き方と《万物の父にして維持者・かの限りなきもの》への立派な奉仕を通じてみずからをそれにふさわしいものとするかによるのだが、今後さらに多くのものを私から受け取る運命にあるおまえに対して命じるに、もしも将来、おまえも惑星地球に

行くことがあったら、必ずニューヨークの町を訪れ——もしもそのときまでにこの町が滅びていたなら少なくともかつてこの町があった場所にたたずんで——みずからの全身全霊をもって次のように言いなさい。

『私の愛する祖父にして公正な師、ベルゼバブは、かつてこの場所で、その生涯の一時期を楽しく過ごされたのだ』